

北京 + 30

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

なんでないの SRHR

性と生殖に関する健康と権利 ～私のからだと人生、決めるのは私～

「私の身体はわたしのもの」、性と生殖に関する健康と権利が明確に示されたのは第4回国連世界女性会議、北京会議でした。あれから30年。こうした権利は、今、厳しい状況におかれています。学生時代からSRHRの問題に取り組み、国連の女性地位委員会などの国際会議に参加し活動を続ける福田和子さんにお話を聞き、問題と課題について考えます。

日時

11月16日(日)
13:30～16:00

会場

福岡市男女共同参画推進センター
アミカス4階ホール
福岡市南区高宮 3-3-1



お申込み

講座申込は、下記の申込フォームから、またはメール、FAXにて①講座名、②氏名、③連絡先、④託児希望を明記の上、お申込みください。



申込フォーム

講師

福田 和子さん(#なんでないのプロジェクト代表)

プロフィール 大学在学中のスウェーデン留学をきっかけに、日本でのSRHR実現を目指す「#なんでないのプロジェクト」を開始、国連人口基金ルワンダ事務所にプログラム・アナリストとして勤務し、難民キャンプにおけるSRHR推進に取り組んだ。現在は東京を拠点にSRHRの実現を求め、国内外の政策提言、執筆、講演等を行う。他に、#緊急避妊薬を薬局でプロジェクト共同代表、東京大学特任研究員。

託児

あり(無料、小3まで 申込制)

託児を希望の方は、11月6日までにお申し込みください

定員

100人

参加費

無料

講演の後、福岡の若い世代にSRHRについて日頃思っていることや素朴な疑問などを出してもらうパネルトークを実施します

SRHR とは

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

北京行動綱領の中には「性と生殖に関する健康と権利：セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ（SRHR）」の実現があります。

日本ではこの課題について不十分な状況です。昨秋の国連女性差別撤廃委員会(CEDAW)は日本政府に対し、包括的な性教育や避妊方法へのアクセス、中絶の際の配偶者同意の撤廃、性的マイノリティの権利保障などを勧告しました。こうした問題は特にユース世代への影響が大きく、近年、性教育の不足もあり嬰兒遺棄など悲しい事件も起きています。

政府は現在、第6次男女共同参画基本計画策定を進めています。計画には、SRHRの課題を入れる必要があります。

包括的性教育
って何？
なぜ必要？

緊急避妊薬への
アクセスは？

妊娠中絶には配偶者の
同意が必要？

少子化対策をめぐる不穏な発言も頻発

「高齢女性は子どもを産まない」？
「少子化は、晩婚化や女が働くせい」？



「北京+30」とは

今年は第4回世界女性会議で「北京宣言・行動綱領」が採択されてから30周年です。（「北京+30」）。

北京会議ではジェンダー平等実現に向けて各国政府及び市民社会が優先的に取り組む12の重大問題領域が定められました。日本においても30年の成果と評価が求められています。

北京 JAC ふくおか

Japan Accountability Caucus for the Beijing

北京で開かれた第4回国連世界女性会議(1995年)で採択された北京行動綱領やジェンダー平等社会の実現を目指す福岡のNGO。

活動の目的は、ジェンダー平等を進め“平等の文化”を創る！

問合せ・申込み先：北京JACふくおか

メール：pekinjacfuk@yahoo.co.jp FAX：092-641-8255